

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

わかる授業で自信を持ち一人ひとりの個性を大切に、生徒が本来持っている可能性を引き出すことで夢を実現する学校づくりをめざす。

- 1 生徒のやる気に応え、夢を実現するために基礎学力の定着と社会の基本的なルールやマナーを身につける。
- 2 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、すべての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。
- 3 様々な人との出会いを通じてコミュニケーション力を高め、「地域を支える人材」として人々のために進んで社会貢献できる生徒を育成する。

### 2 中期的目標

#### 1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 「わかる授業」「生徒が受けたいと思う授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。

イ ICT機器を活用し、授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・構造化・協働化）を進めるとともに、教員の「授業力」の向上を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を毎年2%上げ、令和4年度には70%にする（H29・H30・R01：61%・66%・61%）

#### 2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信

(1) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

ア 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「面倒見の良い学校」づくりをめざす。SC、SSWと連携し生徒情報共有会議を密接に行う。

イ 保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。

ウ 生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、部活動の活性化を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を毎年2%上げ、令和4年度には65%にする（H29・H30・R01：58%・60%・60%）

(2) 進路を保障する学校づくりを推進するためのキャリア教育の確立を図る。

ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。

イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。

ウ 問題行動の未然防止に取り組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。

※ 就職内定率の向上をめざし、毎年度95%以上を維持する。（H29・H30・R01：97%・100%・100%）

(3) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

ア 教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことでいじめや差別の未然防止に努める。

イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「多文化共生は進んでいる」を毎年2%上げ、令和4年度には80%にする（H29・H30・R01：73%・73%・71%）

(4) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

ア 授業を積極的に公開するとともに授業や行事等、高校生活の様子を学校説明会やホームページを通じて広報活動を行う。

#### 3 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

(1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数 生徒：575名中523名（91.0%昨年94.8%） 保護者：291名（50.6%昨年53.3%一昨年31.3%）教員：62名（100%） 担任を中心に粘り強く提出を促し、昨年度並みの回答数を維持できた。</li> <li>・コロナ禍で、2カ月の休校、長期休暇の短縮、土曜授業、中止や制約された行事等、特別な1年であったが、生徒の授業への取組や満足度は上がっている。（満足度71%）教職員の授業改善や工夫の成果もあるが、家庭で自主学習ができない生徒が対面授業の分かりやすさや大切さを実感したことも大きいと思われる。</li> <li>・「自分の考えや意見を伝える力の向上」について肯定的回答62%で目標達成。3年次の面接練習やソーシャルスキルトレーニングの成果が出たと思われる。今後は2年次での取組を強化していく必要がある。</li> <li>・教職員は働き方改革が叫ばれる中、休日が減り、コロナ対応等の新たな業務も生じ疲弊している。今後は、外部人材の活用やICT環境の整備、業務削減等で校務の効率化を図る必要がある。</li> <li>・「エンパワメントスクールに来てよかった」の肯定的回答は67%で目標達成。3年生は82%で府の目標も達成。「学校満足度」は「授業のわかりやすさ」「自分の考えや意見を伝える力の向上」「先生の指導の納得感」「学校行事の満足度」等の項目と相関関係があると教育庁により分析されている。生徒・保護者の意見を聞きながら、これらの項目を更に工夫することで、学校満足度80%の達成をめざしていきたい。</li> </ul>	<p>第1回 令和2年7月11日(土)</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、学校の行事予定等で大幅な変更が出ている。新型コロナウイルスに対する受け止め方は保護者によっても大きく異なるので、情報の公開等を従来とは異なる形で丁寧に行っていく必要がある。</p> <p>また、今後の事態も想定しがたく、ICTの環境整備など対応策について順次検討していかなければならない。</p> <p>第2回 令和2年11月18日(水)</p> <p>エンパワメントスクールが6年めを迎える中、生徒と教員間の信頼関係は徐々に築かれつつあり、関心を持って授業に取り組む姿勢が授業見学の際にもしばし見られた。長吉高校も、次のステップに向けて歩み始める段階とあってよく、その契機として「寝ている子どもたち」のモチベーションをどのように向上させるかについて検討すべき。長吉高校が「学びに向かう力」の養成に強いこだわりを持って取り組んできたが、これを教員間だけでなく保護者や地域との連携も含めて多角的に検討していくことが重要。</p> <p>第3回 令和3年2月6日(土)</p> <p>コロナ禍が続く中、学校教育自己診断等の評価で2年生の肯定的評価が低いことは真摯に受け止めるべき。3年生になり出口部分でどれだけ評価を上げられるか検討必要。令和3年度学校経営計画(案)に「考える力」を生徒につけることが明記されたことに長吉高校が次のステップを踏み出したと感じた。具体的にどんな力をめざすのか、各教科はもちろん学校全体でコンセンサスを図ることが必要だ。</p> <p>「令和2年度学校評価(案)」「令和3年度学校経営計画(案)」について委員一致して了承。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「わかる授業」づくり 「基礎・基本の定着と」	(1) 「わかる授業」 「生徒が受けたいと思う授業」をめざした授業改善 ア 「わかる授業」づくりのための授業改善 イ ICT 機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化	(1) ア 生徒の学習状況(実態)に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組みの工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。 イ 研修等で電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。授業におけるナチュラルサポートを実践する。(生徒の努力や取り組みをほめる機会を多くつくる。等)	(1) 考查期間を活用し年3回以上の教員研修を実施。 ア・他のエンパワメントスクールを訪問し、授業見学とともに各校の取組みを聞き取り、各教科で共有する。 ・公開授業週間を年間2回以上実施する。 ・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」での肯定的回答63%以上をめざす。(R01:61%) イ・教員対象・学校教育自己診断の「ICT機器の活用」項目について肯定的回答70%をめざす。(R01:69%)	・年間5回実施(5月2回、10月、12月2回)(◎) ア・各教科担当が他のエンパワメントスクールを訪問し、各校の取組みの情報を収集し、教科会議で共有。(○) ・11月(2週間)、1月公開授業週間を実施(◎) ・「授業のわかりやすさ」肯定的回答は学校全体では71.3%(◎)2年生が60%と低いので更なる授業改善が必要。 イ・ICT機器を活用した教員は77.5%(◎) オンライン授業の構築を進めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化を更に進める。
2 安心して魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信	(1) セーフティネットの拡充 ア 「面倒見の良い学校」づくり イ 図書室の活性化 ウ 学校行事の改善 部活動の活性化  (2) キャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進 イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上 ウ 社会人としての態度・マナーの育成  (3) 人権教育の推進 イ 多文化共生の学校  (4) 中学校等への広報強化 ア 授業公開	(1) ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導 ・1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。 イ 図書室を充実させ居場所を作る。 ウ 生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。 ・新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取り組む。  (2) ア・3年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。 ・本校に配置される外部人材(CC、SSW、SC)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。 イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。 ウ・社会人として必要なマナーとして、遅刻や服装・頭髪等について指導する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。  (3) イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。 ※(1)(2)(3)を通じて生徒の学校満足度を高める  (4) ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらう。 ・HPを通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。	(1) ア・「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)項目について、肯定的回答62%以上をめざす。(R01:60%) ・「担任等に相談しやすい」(保護者用)の項目について肯定的回答63%以上をめざす。(R01:62%) ウ・生徒対象・学校教育自己診断の「学校行事に満足している」項目について肯定的回答69%以上をめざす。(R01:68%) ・年度末における1年生の部活動加入率50%をめざす。(R1:49%)  (2) ア・就職内定率95%以上の維持(R1:100%) イ・学校教育自己診断の「長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついた」の項目について、肯定的回答60%以上をめざす。(R01:57%) ウ・生徒対象・学校教育自己診断の「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」の項目について、肯定的回答、80%以上をめざす。(R01:79%)  (3) イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を年1回以上企画する。 ※「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)項目について、肯定的回答66%以上をめざす。(R01:63%)  (4) ア・中学校教員向け学校説明会と公開授業を組み合わせて実施する。(年間1回以上)	ア・入学前の3月に全ての中学校にヒアリングを実施するとともに、入学後すぐに懇談期間を設けて懇談を実施。 生徒の肯定的回答は63.5%(◎) ・保護者の肯定的回答は66.3%(◎) 学年が上がるにしたがって肯定的回答が高く保護者の信頼が増している。3年は74% ウ・生徒の肯定的回答は67.9%(○) 新型コロナウイルス対応で体育祭は中止、修学旅行は延期することとなったが文化祭は規模を縮小して実施した。内容の充実によりこの状況下で生徒の満足感を引き出すことができた。 ・年度末調査で197名中78名が部活動に参加。新型コロナウイルスの影響は否めず、目標達成には至らなかった。加入率39.6%(△) ア・新型コロナウイルスの影響で就職が厳しい状況だが、3月末で内定率96%を達成。(○) イ・肯定的回答は61.6%(◎)特に3年生は76%進路指導も含め、3年間の取組みが大きく効果をあげた。今後は2年生への取組も強化したい。 ウ・肯定的回答は82.8%(◎) 全学年で80%を超えた。朝の校門での挨拶活動が効果をあげている。今後も教職員からの声掛けを継続したい  イ・授業を通じて外国にルーツを持つ生徒が自分の母国を紹介する機会を企画した。(○) 「多文化共生が進んでいる」の肯定的回答は75%。(◎) ※・「エンパワメントスクールに来て良かった」の肯定的回答は67.3%(◎) 特に3年生は、82%。大阪府の目標も達成した。今後も「授業のわかりやすさ」、「考え・意見を伝える力」、「行事の満足度」、「指導の納得」の項目を工夫して学校満足度を向上させたい。 ア・感染防止の観点から保護者・他校教員への公開授業は中止。(一) ・HPを通じて学校の広報活動を実施。更新の頻度も上がっている。(○)
3 ICTを活用した校務の効率化	(1) ICT等の活用による校務の効率化  (2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成	(1) 校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。  (2) ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。	(1) SSCの掲示板活用と職員室掲示を併用し教職員への日々の連絡体制を徹底する。 ・校務を削減し、時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。  (2) 教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を2回以上実施する。	(1) 教育庁提供資料等はSSC掲示板に保存し、職員会議でも周知。(○) ・生徒情報は一元管理できている。(○) ・時間外縮小に努めたが、時間外勤務80時間以上の職員をなくすことはできなかった。(△)  (2) 首席を中心にベテラン教職員によるOJTを活用したミドルリーダー育成を実施。 ・経験年数の少ない教員研修は5回実施。(◎)